

2016年11月27日(日)

説教:「ひっくり返して下にする」

聖書:マルコによる福音書11章15～19節

新約時代のエルサレム神殿は、かつてバビロン捕囚時に破壊されたものをヘロデ大王の時代に再建したものです。そこは神の民であるユダヤ人にとっては非常に重要な場所で、神に犠牲の捧げものをするために来ている人や、その人々を相手に商売をする人々で賑わっていました。イエスはおもむろにそこで商売をしていた人々を追い出し、両替人のテーブルや鳩を売っていた者たちの腰掛をひっくり返します。

再建されたエルサレム神殿は、単に神に祈りを捧げるための宗教的な場所ではありませんでした。ヘロデ大王の意図は宗教・政治・経済のすべてを自分の思いのままにし、神殿国家体制を強化することでした。人口の90%以上占める農民たちがヘロデによって搾取され、その神殿国家体制を支えていました。干ばつや飢饉、疫病が度重なりますます貧しく没落していく者、先祖から受け継いだ大切な土地を手放した者…。当時のユダヤ社会を支配していたヘロデ王国の繁栄は、農民たちから吸い上げたお金と命で成り立っていました。イエスの行動はこのような神殿国家体制に対する痛烈な批判でした。

イエスは鳩を売っている者の腰掛をひっくり返しました。ここは直訳すると「ひっくり返して下にする」という意味です。それはつまり、ユダヤの人々を支配していた神殿国家体制が転倒することの象徴でした。人々の命と尊厳が大事にされない神殿国家体制の否定であり、その時代を支配していた常識というものがひっくり返されるという、象徴的な行為でした。神の国の到来は神から見れば極めて非常識な、この世の、この社会の人間による常識や価値観がひっくり返ることを伴うのです。古い価値観がひっくり返る、ということは沖縄においては具体的には、ヤマトから勝手にレットル張りして貶められた沖縄の人々の尊厳が回復される。そして基地はいらない、戦争はしないという声がきちんと聞き入れられる。そういったことです。

イエスはやがて政治犯として十字架刑で処刑されることになりますが、それこそ、神の国の到来が、つまり今の時代の価値観が転倒することがユダヤの権力者、支配者たちにとって脅威であったことがわかります。今の時代もそうでしょう。ですがイエス・キリストの「神の国の始まりが始まっているのだ」というみことばに信頼する私たちは、神の国の到来を喜んで待ちつつ、イエス・キリストのみ足のあとに従って行動して行きたいと思います。(國分美生)